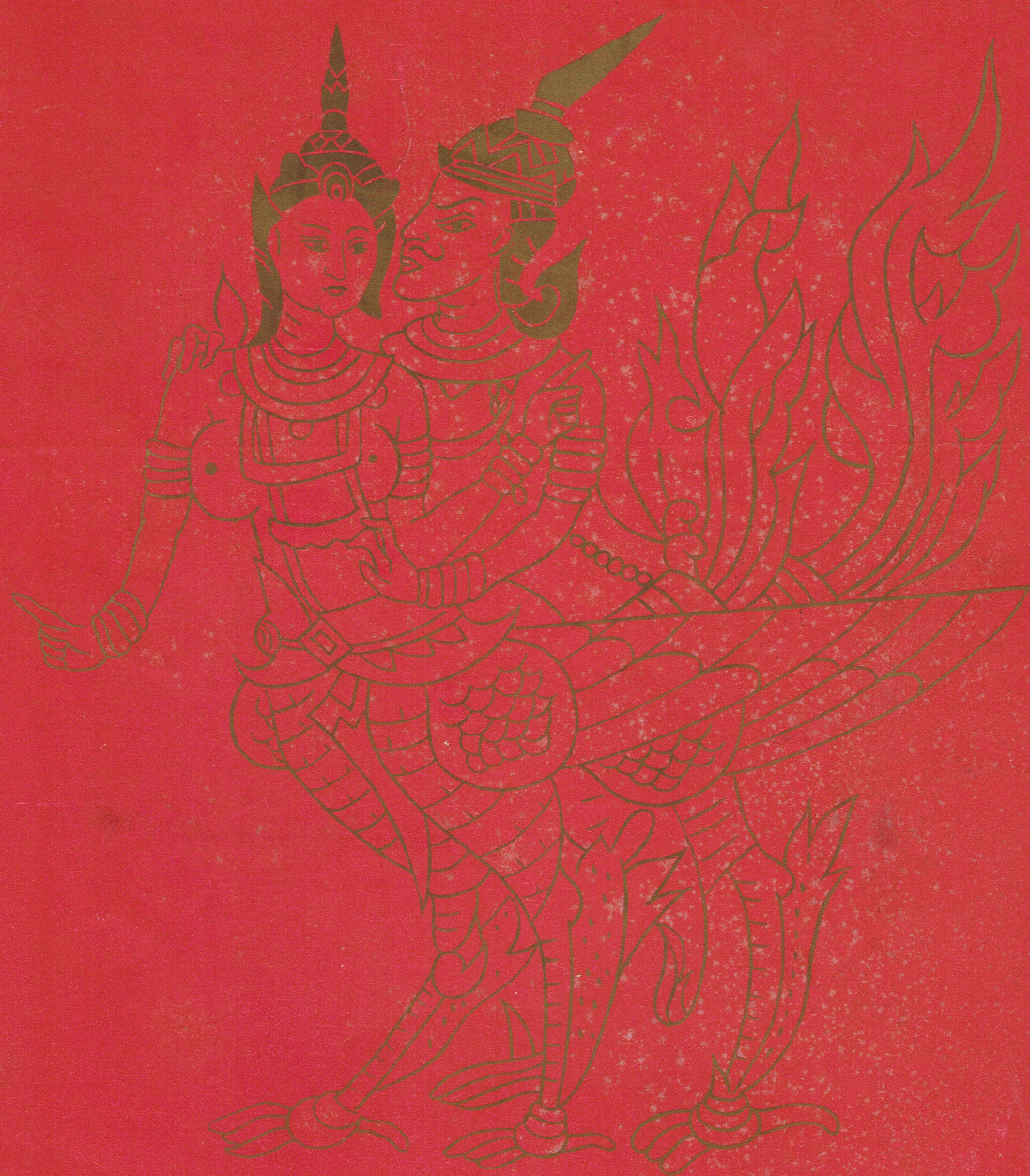


SAKAKIBARA DANCE RECITAL



15 . 16. NOV. 1958, KUDAN HALL



琉球舞踊鳩間節

は、世界の舞踊の中タイ舞踊と並んで最も高雅思索的な舞踊のように見えます。例えば、挙げた足をおろすのに踵から先におろして、次に足先を床につけるといった具合に、如何にも、印象的に注意深い歩法を用い、一寸踊つてもすぐ朝鮮舞であると云う事がわかります。又、其の外妓生によつて保育された通り、及び田園的な民謡舞踊が沢山あることは他の国と同じです。

九、琉球の舞踊

琉球は地理的に日本と南方諸地域との中間に存在するので、舞踊も日本のものと両様式をとり入れて面白いものが沢山あります。大別しますと、古典舞踊と雑踊りとはに分けることが出来、古典舞踊は、昔琉球国王の即位式に中国からの冊封使が渡来したとき歓待するために、王宮に於いて、踊つたもので、王室舞踊手の王城朝薫が琉球古典舞踊を完成したものとされており、琉球の神話伝説を舞踊化したものであるが、これらの踊り方の根本に、日本の能のスタイルが多分に含まれているように考へられます。これらの古典舞踊の代表的なものを分類すれば、老人踊り御前風節老翁の格好で広帯、頭布をかぶり扇子をもつて踊る。

牡牛節(クテブシ) 美少年の踊りで女のような美しい衣裳を着て踊る。

二才踊(高平万才、八重瀬万才、上り口説、前の浜等)——紋付、脚絆をつけ向

鉢巻できびきびした成年踊り。

女踊り(四ツ竹、総掛節(オシカケブシ) 諸屯節(シュトンプシ) 伊野波節(ノハブシ) 恩納節(オンナブシ) 等)——美しい紅型と言う衣裳をつけ、手に四ツ竹や笠、かせ等、色々の持ものをもつて踊るもの。

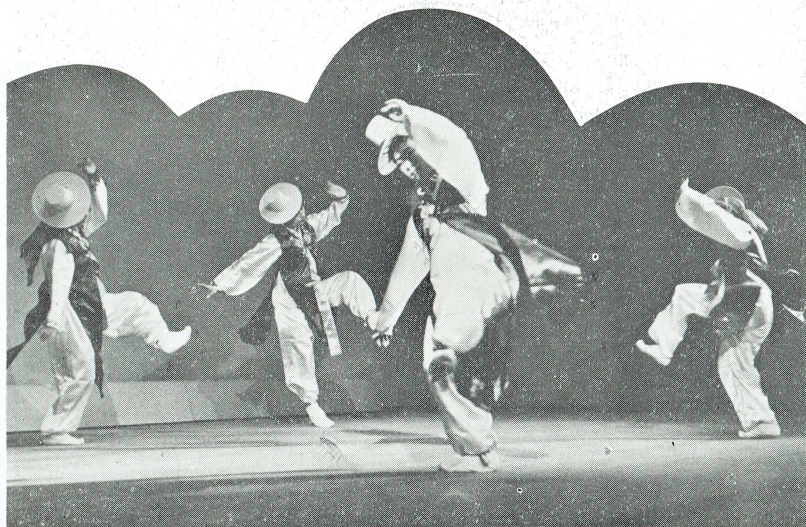
雑踊(鳩間節、天川節、谷茶前(タンチャメ) 浜千鳥節等)——最も近代的な感じのするリズムミカルな踊り。

又、これを構成の上から説明すれば出羽、中羽、入羽の三段に分かれており、出羽とは、舞踊に出て来て、定められた位置へ来るまでの前踊り、中羽は、本踊りで中心になる踊り、入羽は、引込みの踊りであります。其の外民謡舞踊に属するものがたくさんありますが、ここでは省略いたします、ここで面白いと思うことは琉球舞踊が日本舞踊の影響を受け、日本舞踊よりも、より東洋的な要素を多分に含んでいると言うことです。日本舞踊は出雲のおくによつて、始められてから江戸三百年の間に育生し、完成されたものでありますが、この三百年間は徳川幕府により、外国との交流を絶たれて育つた舞踊であるために、今日の如き外国の舞踊と全く異つた特殊な形になり、琉球舞踊は、この鎖国の間にも東洋の各国と交流し、而も日本的な舞踊である点、東洋舞踊としての日本舞踊が琉球舞踊であることが出来ま

す。この点日本舞踊家にとつて琉球舞踊を重要視し研究されねばならないと思いま



琉球舞踊たんちやめ



すが、いづれもインドから移入され、ジャワに影響され、扇の技巧とか、衣裳の点で支那からも影響されたと思われる点が見受けられます。

六、フィリッピン の舞踊

フィリッピンは、永い間スペイン領になつていたので、南米と同じようにスペイン風の舞踊が入つておりますが、これとても本場のスペイン舞踊程の良いのは見受けられず、むしろそうした舞踊よりも民俗舞踊の中に面白いものがあります。農民の取入れの踊りで笠をもつて踊るサラコツト、又、ヤシの実を両手にもつて踊るパオダンス、又、ローソクを頭の上と両手に持つて踊るフアンダンゴサイラウ、或は、地上に二本の竹を横にして、その両端をもつて、その竹を打ち合せており、その間に入り三拍子に動いている竹に足をはさまれない様に、その竹の間へ足を入れたり、出したりし乍ら踊る遊戯に近いティニクリンダンス、其の外カリニヨサ、モロ族のモロダンス、イゴロット族のイゴロットダンス等があります。

七、中国の舞踊

中国には、他の国のように純粹の舞踊と云うものは存在せず、中国の演劇の中に包含されて、特に舞踊だけを論ずることは出来ませんが演劇そのものの中に舞踊のパートが必ず入れられております。そのため演劇としてお話ししましょう。中国の



演劇は、何と言っても唐の玄宗皇帝に負うところが多いのです。玄宗皇帝は、音楽に精進し、舞踊演劇の愛好者であつたので梨園教法と云う学校を設け、数百名の若い青年男女を、皇帝自からも指導に立ち、音楽、舞踊、演劇の教育をし、中国演劇の基礎を築き上げたものであります。而し、勿論この以前に、舞踊がなかつたものではありません。BC、二十世紀頃から巫子の踊り子によつて、宗教的な行事として神前で踊られた記事もあり、又、BC、七世紀の魯の隠公の母が大歌舞団を組織したと言ふことも史実に出ておりますが、現在は、前にも述べましたように、純粹舞踊はありません。而し、あれだけ広大な地域をもつて、いる中国のことですから、民間の郷土舞踊は現在も沢山あります。特に中国人民共和国になつてからは、これらの舞踊も推奨しているので中央でよく紹介される機会が多いようです。次に有名なものだけ二、三列挙しておきましょう。

瑶族の長鼓舞り、タイ族の孔雀舞、福建省の茶つみ燈籠踊り、北京其の外各地にある蛇踊及び獅子舞、剣

舞としての三岔口、チベットのヤク踊り及びマスケダン、その他数多くのものがあります。

八、朝鮮の舞踊

日本宮廷舞踊のうち、右の舞と言われる踊りは、みんな朝鮮から日本へ輸入されたものであります。こうした雅楽調の舞踊が今日もお朝鮮舞踊の主流をなし、優美な古典舞踊が永い間、朝鮮の古王朝愛護のもとに伝承されて来たものであります。その動きの特色として、ゆるやかな三拍子の曲に合せて哀調をおびたメロディに舞う姿

四、ジャワの舞踊

ジャワの舞踊の起源について色々の伝説がありますが、いづれにしても、今から約二千年も前から相当進んだものがあつたように考えられます。その形式もインド舞踊の影響を受け、手のジェスチュア（インドのムードラ）及び動きにインド的要求が多く入り、又仏教の儀式に感化を受けて宗教的なものがたくさんあります。

特に舞踊として最も有名なものは、スリムピイと言う舞踊であります。これは四人で踊る組舞ですが、実際は、二人踊りのダブルセットになつて踊るもので、その内容は一人のサルタンに恋した二人の王女の嫉妬を取り扱つたもので、短剣と弓矢を持つた争いの型を前の二人が踊る、その動作を後の二人がうつし取つた動きを静かな中に強い変化をもつたものです。又、舞踊のワヤンウオンと言う面白いものがあり、又、ソロ舞踊として、ワヤンゴレツクと云う人形劇の人形振りをする特異なものもあり、人形振舞踊として高度に発達したものであります。



中国舞踊剣の舞

五、バリ島

の踊り

バリは、世界のどの国よりも舞踊を重大視する島であります。一例を挙げますと、今夜は舞踊があると言え、どんな重要な約束でも破棄して、舞踊をみに行くことが出来る事になつていゝと言われている。

この島では、女の子が歩み始める頃から

先づ踊り方を習い、十才前後になると本格的師匠について訓練され、舞踊が上手なのが何よりも女子の誇りとされています。コスチュームも非常に変わった形のもが使用されます。背を高く見せるために胸や腰を布で堅く巻きペバダンと言う胸当てに、ラマと言う長方形の金方形の爛地に寶石を散りばめた豪華な衣裳をつけ、ジャワの踊りが静かで優雅なのに反して、バリでは活潑な動作が特色とされています。

特にレゴンと言う踊りが美しいので有名です。レゴンの本筋は、

バリ島に伝わるパンジー物語のマラツトの挿話から取つたもので、ランケサリと言う王女は、彼女によこしまな恋情を抱くラーセム王からあくどく求婚されるが拒否する。ラーセム王は彼女の父と戦い、若し彼女が彼の意に従えば戦いを中止すると約束するが、彼女は依然として拒否する。更に彼は、父を殺すと脅迫するが彼女は服従しようとしません。彼は怒りのあまり、彼女の父を殺そうとすると、黒い一羽の鳥が飛んできてラーセム王を殺してしまふと言う筋のものであります。これに舞踊劇で巧妙に表現して行くものであります。踊りの中で特に興味があるのは、扇子の踊りの部分で開いた扇をひらひらさせ乍ら、二人の踊り子が寸分交らず一人の踊りが二重にうつさている様に完全調和した動きをし、正確な巧妙で表現していることです。又このレゴンの女の踊りに対して男性的な踊りにバリスと言う非常にむづかしいテクニクを持つた踊りがあります。

その外、ジャンケル、バロン、ジャオッタ、チャロン等たくさんの舞踊があります。



朝鮮舞踊打鈴

文化の原形のまま連綿として
伝えられたものであります。

又、その舞踊の語源（ババー
表現、ラガメロデー、タラ
ーリズム）が示すように、舞
踊としての完全な内容をもつ
ており、動きも非常に力強く
ダイナミックの感じの舞踊で
中でもアラリップと言う神へ
の祈りに始まり、神を讃え、神
性へ近づこうとする信仰を熱
情的に踊る踊りシバ神の踊が
有名であります。以上述べま
した古典舞踊の他に全インド
隅々まで、数多くの民謡舞
踊、フォークダンスがありま
すが有名なものだけその名を
列挙しておきましょう。

- 1 テツカン地方のシアシー踊りとボットダンス
- 2 マラバリ地方のハーベストダンス、マラワリダンス
- 3 ボンペー地方のウワーダンス、ポペットダンス
- 4 アツサム地方のナーガダンス
- 5 オリツサ地方のチヨウダンス、オランダダンス
- 6 ラジプタン地方のガンダダンス
- 7 ベンガル地方のサンタピレッツダンス等々無数に踊られております。

二、ビルマの舞踊

ビルマは、インドとタイ国の間に挟まれた国であり乍ら、色々の文化の面に、この二国の影響よりも、より多く中国の影響を受けている様な気がします。私もインドからの帰りに、ラングーンで飛行機を降り、とたんに中国に來たと言ふ様な感じがしました。これは私だけではならしい、誰でもそういう感じをもっているらしいのですが、舞踊の面でも、インドもタイも金色さん然たる豪華なものを使用しますが、ビルマの舞踊衣裳は、白、黄、緑等の原色で生地も軽いもので出来ており、



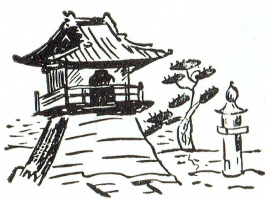
印度舞踊 マニブリダンス

動きもかるく速い動作が多く又、インドもタイも王室の保護のもとに育つた宮廷舞踊があるのに対して、ビルマ舞踊は、民間に育つたものばかりで、原始宗教崇拜の觀念と結びついて出来上つたものであります。舞踊のことをブウエと称しており、宗教的な祭りやお祝のときには必ずこのブウエが踊られます。

三、セイロンの舞踊

セイロンはインドの中に包含されていた島であつたのが、最近独立して一國を形成したものでありますので、舞踊もインドの踊りが多く踊られておりますが、セイロンには、特に、キャンディダンスと言うセイロン独自の舞踊もあります。

このキャンディダンスは、その起源を遠く六世紀頃に持ち親から子供に、更にまたその子供に代々の秘法として教え伝えられて、今日まで來たもので、ドラムやシンバルの伴奏で踊られる男性的な踊りで、足で強いはつきりしたリズムを踏みながら手を自由に動かして踊るヴェスと言う踊りが一番有名になつています。其の外シヨールを振り乍ら踊る女踊のナイアデー、タンパリンの皮の張つてないものをもつて踊るパンテル、手に皿をもつて手首を上手に使つて踊るハツスタリ、お面ダンスとしてデイヴルダンス等があります。





ジャワ舞踊スリンピー

3 南西インド地区

(マラバル地方からボンベイ附近に至る間)——カタカリ

4 南インド地区

(マドラス南方地区)——バラタナトヤム

以上の四系統に分けることが出来ると思います。

1 カタツクダンス

カタツクは、北インドの舞踊であります。北インドは幾度も外国の侵入を受けて、純粹のヒンドウ文化ではなく、所謂回教的な文化が残っている如く、舞踊も

他の三つに比べて非常に異っている。そして、この舞踊が王侯、貴族の保護を受けて宮廷舞踊として育つたため、非常に上品なものとなり、又、専門の宮廷舞踊手によつて、テクニクもほとんど人間技とは思えない程高度に発達し、ステツプの正確さ、特に回転のテクニクがよく発達しています。優秀な宮廷舞踊手が二百もの鈴を足につけ旋風のような早い回転を行う最高潮の時などその神技の中にこうつとさせられてしまいます。

2 マニプリダンス

マニプリダンスは、北東インドのマニプール地方から起つた踊りで次の四つの型をもつております。

- 1 ライハロバ
- 2 アストラヴィドヤ
- 3 チャランガタン
- 4 ラサリラ

1 ライハロバと言うのは、最も古いダンスで寺院のお祭りに大勢の男女が参加して、一週間から十日も続くものです。

2 アストラヴィドヤは、アクロバティックな踊りで、刀や槍をもち出陣の舞、戦の舞で非常に活潑で男性的な踊りで、何年かの修練の後にはじめて踊れるむづかしい踊であります。

3 チャランガタンは、マニプール地方でヴィシヌ神に祈りを捧げる信仰的な宗教舞踊であります。

4 ラサリラは、マニプリダンス中、最も有名なもので恋愛の神、クリシュナ神の生涯を美しく描いたもので曲線的な美しさに独自の風変りな形をしたスカートをを用い、インドの古典舞踊中、最も豪華なコスチュームをもっており、又、このマニプリダンスは観喜と美の踊りであり、民謡舞踊として、大勢で踊ることもできるので、非常に広く踊られており、又男舞として、太鼓の踊りは特に面白い形をもっております。

3 カタカリ

カタカリは南西インドのケララで十六世紀の初め頃成立したもので、この舞踊は、舞踊と云うよりも、むしろドラマの性格を多分にもち、非常に発達した指先の動きムードラを使い男性的な強い動きと指先で語られる無言劇であります。このカタカリの主題中最も多く踊られるのが昨年私の公演致しました史劇ラーマヤナであります。カタカリのことをラマナツタムロと呼ばれる程です。

4 バラタナト

ヤム

インド古典舞踊中最も古い踊で、ヒンドウ

バリ島の舞踊レゴン



アジア舞踊について

榊 原 帰 逸

アジア舞踊公演を機会に少しでもアジアの舞踊を理解し、アジアの美を愛していただくために、アジアの国々の舞踊について略記致します。

前回、ラーマヤナ公演のとき記述しましたが、先づアジア舞踊の源泉をなす、インド舞踊から説明致しますよう。

一、インドの舞踊

先づインドの舞踊について、最も大きな特色は、その動きにも、ポーズにも、すべて意志（ミーニン）を与えている事であります。私がインドのタゴール大学のラヂコモール教授について、インド舞踊の指導をうけておりました時、彼は口ぐせのように「西洋の舞踊は如何に、その動きが巧妙であろうとも、その動きそのものには魂はない。インドの舞踊は、一挙手一投足がみな魂をもっている」と申しておりました。なるほど西洋の舞踊は、そのポーズ、ステップ、ムーブメントそのものは

印度舞踊カタカリ



印度舞踊バラタナトカム

ノーミーニング（無意味）です。それを組合せ構成して、舞踊手自身に心により始めて意味がでてくるのです。が、インド舞踊は、一寸したポーズにも、一つのステップにも、それぞれの意味があります。こうした意味を持った動きとポーズを組み合せて、更に大きな深い意味を表わして参ります。

例へばインド舞踊の中で最も多く踊られているシバ神（とは天地創造の神でもあり、又、天地破壊の神でもある偉力の大なる神）があり観行の円満を現

して、裸形垂髪、頸に毒蛇をまとい、悪鬼を踏まえ、美貌の若者として一つのポーズで現わしている。又、マニプリ舞踊の中心をなしているクリシュナ神はインド神話中で、宇宙最高の神ヴィシュヌ神の第八の化身で、その愛人ラーダに対する崇高な愛の理想と横笛を巧みに吹くので、右頬の横に笛の形を作ったポーズで現わされています。其の他アグニ神（不動）ガネシャ神（聖天）ブラマ神（梵天）或は、日、月、星震に至る迄（各派によつて多少異なるが）一つのポーズによつて表現することが出来る様になつています。次に、インド古典舞踊を大別すると、北インド風と南インド風の二つに分けることが出来ます。

- 1 西北インド地区（デリー附近）——カタックダンス
- 2 北東インド地区（マニプールからベンガルのシヤンチニケタンの附近）——マニプリダンス

◎印

◎中

◎朝

◎ジ

◎日

☆☆☆☆

アジアの舞踊

☆☆☆☆

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

E 榊原房江
F 榊原孝子
G 榊原喜久子
マヌラー 榊原真帰子

第五景

(タイ王宮の王位継承の場)

王子の帰還を待ちわびていた全国民の喜びの中に父王の跡をついで王位継承の饗宴が開かれ、天の主インドラ神は天使を供なつて天くだり、地の神オロジュン、大海の支配者竜王、翼の王黄金のガルダ等の神々も一堂に来臨し、タイ古典舞踊にぎやかに踊られる。

ブラストーン王子 榊原絵津子
マヌラー 榊原真帰子
大臣A 飯田正男
大臣B 葛西由夫
大臣C 沢和哉
侍女A 春目園江
B 村上尚子
C 池田正子
D 飯沼和子
フオーンレツプの踊り手 榊原陽美
榊原和野
榊原栄子
榊原かほる
榊原千恵
榊原光重
榊原順子
榊原啓子
インドラ神 榊原千鶴子

天使 榊原いづみ
天 榊原亮子
榊原文美
榊原栄苗
榊原早子
榊原美千
榊原福江
ガルダ 榊原喜美代
オロジュン 榊原八重子
龍王 榊原房子
キンナリー 榊原玲子
B 榊原光美
C 榊原有子
D 榊原房江
E 榊原孝子
F 榊原喜久
G 榊原全員
外

榊原学園

東京舞踊学校(学校法人)

東京都台東区仲御徒町一ノ六一
電話 下谷 83 三五一一番



ジャワ舞踊スリンピー

3 南インド地区

(マラバル地方からボンベイ附近に至る間)——カタカリ

4 南インド地区

(マドラス南方地区)——バラタナトヤム

以上の四系統に分けることが出来ると思います。

1 カタツクダンス

カタツクは、北インドの舞踊であります。北インドは幾度も外国の侵入を受けて、純粹のヒンドウ文化ではなく、所謂回教的な文化が残っている如く、舞踊も

他の三つに比べて非常に異っている。そして、この舞踊が王侯、貴族の保護を受けて宮廷舞踊として育つたため、非常に上品なものとなり、又、専門の宮廷舞踊手によつて、テクニクもほとんど人間技とは思えない程高度に発達し、ステツプの正確さ、特に回転のテクニクがよく発達しています。優秀な宮廷舞踊手が二百もの鈴を足につけ旋風のような早い回転を行う最高潮の時などその神技の中にこうつとさせられてしまいます。

2 マニプリダンス

マニプリダンスは、北東インドのマニプール地方から起つた踊りで次の四つの型をもつております。

1 ライハロバ 2 アストラヴィドヤ 3 チャランガタン 4 ラサリラ

1 ライハロバと言うのは、最も古いダンスで寺院のお祭りに大勢の男女が参加して、一週間から十日も続くものです。

2 アストラヴィドヤは、アクロバティックな踊りで、刀や槍をもち出陣の舞、戦の舞で非常に活潑で男性的な踊りで、何年かの修練の後はじめて踊れるむづかしい踊であります。

3 チャランガタンは、マニプール地方でヴィシヌ神に祈りを捧げる信仰的な宗教舞踊であります。

4 ラサリラは、マニプリダンス中、最も有名なもので恋愛の神、クリシュナ神の生涯を美しく描いたもので曲線的な美しさに独自の風変りな形をしたスカートを着て、インドの古典舞踊中、最も豪華なコスチュームをもっており、又、このマニプリダンスは観喜と美の踊りであり、民謡舞踊として、大勢で踊ることもできるので、非常に広く踊られており、又男舞として、太鼓の踊りは特に面白い形をもっております。

3 カタカリ

カタカリは南西インドのケララで十六世紀の初め頃成立したもので、この舞踊は、舞踊と云うよりも、むしろドラマの性格を多分にもち、非常に発達した指先の動きムードラを使い男性的な強い動きと指先で語られる無言劇であります。このカタカリの主題中最も多く踊られるのが昨年私の公演致しました史劇ラーマヤナであります。カタカリのことをラマナツタムロと呼ばれる程です。

4 バラタナト

ヤム

インド古典舞踊中最も古い踊で、ヒンドウ

バリ島の舞踊レゴン



アジア舞踊について

榊 原 帰 逸

アジア舞踊公演を機会に少しでもアジアの舞踊を理解し、アジアの美を愛していただくために、アジアの国々の舞踊について略記致します。

前回、ラーマヤナ公演のとき記述しましたが、先づアジア舞踊の源泉をなす、インド舞踊から説明致しますよう。

一、インドの舞踊

先づインドの舞踊について、最も大きな特色は、その動きにも、ポーズにも、すべて意志（ミーニン）を与えている事であり、私が見たインドのタゴール大学のラヂコモール教授について、インド舞踊の指導をうけておりました時、彼は口ぐせのように「西洋の舞踊は如何に、その動きが巧妙であろうとも、その動きそのものには魂はない。インドの舞踊は、一挙手一投足がみな魂をもっている」と申しておりました。なるほど西洋の舞踊は、そのポーズ、ステップ、ムーブメントそのものは

印度舞踊カタカリ



印度舞踊バラタナトカム

ノーミーニング（無意味）です。それを組合せ構成して、舞踊手自身心のより始めて意味がでてくるのです。が、インド舞踊は、一寸したポーズにも、一つのステップにも、それぞれの意味があります。こうした意味を持った動きとポーズを組み合せて、更に大きな深い意味を表わして参ります。

例へばインド舞踊の中で最も多く踊られているシバ神（とは天地創造の神でもあり、又、天地破壊の神でもある偉力の大なる神）があり観行の円満を現

して、裸形垂髪、頸に毒蛇をまとい、悪鬼を踏まえ、美貌の若者として一つのポーズで現わしている。又、マニプリ舞踊の中心をなしているクリシュナ神はインド神話中で、宇宙最高の神ヴィシュヌ神の第八の化身で、その愛人ラーダに対する崇高な愛の理想と横笛を巧みに吹くので、右頬の横に笛の形を作ったポーズで現わされています。其の他アグニ神（不動）ガネシャ神（聖天）ブラマ神（梵天）或は、日、月、星震に至る迄（各派によつて多少異なるが）一つのポーズによつて表現することが出来る様になつています。次に、インド古典舞踊を大別すると、北インド風と南インド風の二つに分けることが出来ます。

- 1 西北インド地区（デリー附近）——カタックダンス
- 2 北東インド地区（マニプールからベンガルのシャランチニケタンの附近）——マニプリダンス

◎印

◎中

◎朝

◎ジ

◎日

☆☆☆☆

アジアの舞踊

☆☆☆☆

本

(イ) 鹿児島小原節

平岩智江

(ロ) 及太渡

川地正和

(ハ) 黒田三津子

(ハ) 幻想曲“白鳥”喜美代

(ハ) 亮千鶴子

ヤ スリンピ

陸浩子

(イ) ト 鮮

原原陽子

(ロ) 打 順 鈴

原原子

中国 踊り

原原津子

度 文 絵 津

原原子

ドラムダンス

原原信子

原原行

原原子

原原子

原原子

原原子

原原子

原原子

原原子

原原子

原原子

原原子

島

田

吉

橋

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

島

田

吉

橋

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

原

由美子

洋子

温子

園子

八重子

文真子

文真子

文真子

文真子

文真子

文真子

文真子

文真子

文真子

文真子

文真子

文真子

文真子

文真子

文真子

文真子

文真子

文真子

文真子

文真子

文真子

文真子

文真子

文真子

文真子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

子

◎沖

(イ) マニプリダンス

伊藤正子

池田正子

春日園子

田辺京子

小田京子

(ロ) アラリツプ

小田京子

小田京子

小田京子

小田京子

小田京子

小田京子

小田京子

小田京子

小田京子

小田京子

小田京子

小田京子

小田京子

小田京子

小田京子

小田京子

小田京子

小田京子

小田京子

小田京子

小田京子

小田京子

小田京子

小田京子

小田京子

小田京子

小田京子

小田京子

小田京子

飯沼和子

大田幸子

田中幸子

村上幸子

矢野尚子

八重子

有子

美智子

孝子

喜久子

芳美

慎美

郁子

賀子

優子

大子

福子

佐藤

関原

藤原

和子

恒美

弘美

美子

美子

美子

美子

美子

美子

美子

美子

美子

美子

美子

美子

美子

E 榊 原 房 江
 F 榊 原 孝 子
 G 榊 原 喜 久 子
 マヌラー 榊 原 真 婦 子

第五景

(タイ王宮の王位継承の場)

王子の帰還を待ちわびていた全国民の喜びの中に父王の跡をついで王位継承の饗宴が開かれ、天の主インドラ神は天使を供なつて天くだり、地の神オロジュン、大海の支配者竜王、翼の王黄金のガルダ等の神々も一堂に米臨し、タイ古典舞踊がにぎやかに踊られる。

ブラストーン王子 榊 原 絵 津 子
 マヌラー 榊 原 真 婦 子
 大臣 A 飯 田 正 男
 大臣 B 葛 西 由 夫
 大臣 C 沢 和 哉
 侍女 A 春 目 園 江 子
 B 村 上 尚 子
 C 池 田 正 子
 D 飯 沼 和 子
 フォーンレツプの踊り手 榊 原 陽 美
 榊 原 和 野 子
 榊 原 栄 子
 榊 原 か ほ る
 榊 原 千 恵 子
 榊 原 光 重 子
 榊 原 順 子
 榊 原 啓 子
 インドラ神 榊 原 千 鶴 子

天 使 榊 原 い づ み
 榊 原 亮 子
 榊 原 寿 笑 子
 榊 原 文 子
 榊 原 栄 美 子
 榊 原 早 苗 子
 榊 原 美 千 子
 榊 原 福 江 子
 ガルダ 榊 原 喜 美 子
 榊 原 八 重 子
 オロジュン 榊 原 房 子
 龍 王 榊 原 玲 子
 キンナリー 榊 原 光 子
 B 榊 原 有 子
 C 榊 原 房 江 子
 D 榊 原 孝 子
 E 榊 原 喜 久 子
 F 榊 原 全 員
 G 榊 原 全 員

榊 原 学 園

東京舞踊学校 (学校法人)

東京都台東区仲御徒町一ノ六一
 電話 下谷 (83) 三五二一番

第三景

(火あぶりの刑場)

キヤンドルダンスの踊り手

[illegible]

第四景（中幕前）

タイ国からジャングルを通り
ヒマラヤの頂上迄の道

クラトツプマイの踊り手

クラトツプマイの踊り手	榊原澄子
〃	榊原陸子
〃	榊原祥子
〃	原はつ子
〃	原美都子
〃	榊原光以
プラストーン王子	榊原絵津子
魔の国の女	榊原孝子
〃	榊原喜久子
〃	榊原玲子
魔女	榊原光美
〃	
コーン	榊原千代子
ウーマー	榊原美智子
スクリープ	榊原和子
トサカン	榊原喜美代
ヨギの踊り	榊原八重子
〃	榊原房子
〃	榊原弘美
〃	榊原信行
キンナリーの王	榊原玲子
キンナリー	榊原光美子
B	榊原玲子
C	榊原光美子
D	榊原光美子

タイ古典
舞踊劇

”
キンナリ
”

全五景

[illegible]

アノダス池のほとり遠くに
タイ王宮の見える森の中

ヒマラヤの頂上にあるキンナリーの国の七人の王女達は、七色の衣をまとい、下界へ降りて来て、アノダス池で楽しく水浴している。そこへハンターのブランブンが獲物を求めて通りかかり、美しいキンナリー達を見つけ、一番年下のマヌラーを捕えてほうびのお金ほしさに王様に献上する。

キンナリ

	A	(マヌラー)		柚原真帰子
	B		柚原玲子	
	C		柚原光美	
	D		柚原有子	
	E		柚原房江	
	F		柚原孝子	
	G		柚原喜久子	
ハンター				柚原八重子
ブランブン				

（豪華なタイ王宮の中）

タイ国王の前で美しいフオーンレツプが踊られている。王宮につれてこられたマヌラーは身の不幸をなげく悲しみの踊りを踊る。このマヌラーの悲しく、美しい踊りに王子プラスチックが同情し、一緒に踊る。そして、二人の間に愛情が芽ばえ、王子と共に王宮で暮す中に益々結ばれ、王に願つて二人は結婚する事になる。

タウアテイヤゴン王

プラナチヤントラー妃

プラスチック王子

大臣ブロヒ

大臣
B

大臣 C

待女
A

B //

C //

D

「インレツプの

//

//

//

//

//

//

//

.....

ブ
ン
.....

と予言者であ

くみ
「ミ

この白象を甫

市を受けて勇

よつてゐる。

しかしここに予言者であり野望家の大臣プロヒは、自分の娘と王子との結婚を夢みて、悪計をたくらみ「ジャングルの中に、千年に一度現われると伝えられている白象がいる、この白象を描え得る者は、プラストーン王子のみである」と王に進言する。

王子は王の命を受けて勇んで進発する。その不在中にプロヒは、「この頃、王宮内にいるために妖雲がただよっている。それは、人間に非らざる者がこの王宮内にいるためであ



と言う町へ行幸されましたので、私も北タイへ行き、歓迎式場の王様の御前で幾千とも知れぬタイの人々の踊る姿を見ることが出来ましたが、実に壮観でありました。又、キヤンドルダンスと言うローソクの踊りがあります。タイ国は完全な仏教国でありますので、いつも仏の無量の光を点じ、人々の心を美しく清めると言う意味の、仏教的な行事にラムクリットと言うランタンダンスと共によく踊られます。



次にクラトプマイ、この踊りは、タイ国の豊年踊りで農民が豊作を祝つて二本の長い杵を横にし並べて、それを打っているその間を男女で組んで踊りながら通り抜けるという楽しい踊りです。

この種の踊りは、竹竿を打っている間を跳び乍ら踊るベトナムの踊りやフイリッピンのテイニクリントと全く同形のものであります。其の他ビルマスタイルのマニハイシシタやドラムダンス等沢山ありますが一番通俗的な踊りは、ラムボーンと言つて日本の炭坑節の様に、大勢集まつた席で誰でもすぐ踊れる踊りが一般人の間にさかんに踊られております。



つて、独自のタイ舞踊・タイ音楽を構成したのであります。

東南アジアの国々の中には生まれたタイの文化は、インド的でもあり、又、ジャワの影響もあり、或いは、北方中国風なふんいきも持つております。而し、タイ舞踊音楽の良さは、インド程急調な強いもの（インド舞踊のカタカリやバラタナトヤムは、実にダイナミックなものである）でもなく、中国の様に、喧騒でもなく、実に優雅な静けさをもつたものと言う事が出来ます。寺院のパゴダ（仏塔）を形どり寶石をチリばめたカンムリを戴き、金糸銀糸の刺繍をほどこした豪華な衣裳（衣裳の美しい様は、世界の舞踊コスチュームのどれよりも豪華なもの）を身につけたタイ・スタイルのシロホンを主要楽器としたタイ音楽の奏楽の音につれ舞う姿は、仏典の中



に画かれている浄土の莊嚴の中から舞い出た天女かと思われる程の優美さであります。

次に舞踊の実際について説明致しましょう。先づコーンと言う面白いマスクプレーがあります。これには、人間の動き悪魔の動き猿の動きがそれぞれの特徴のある動きに規定され、特に猿の動きがコミックで長いコーン中で息抜き役割を演じている様に思われます。そして、これらが古典舞踊と同じように、特殊な衣裳をつけ、例えばトサカン（悪魔の頭目で青色のグロテ

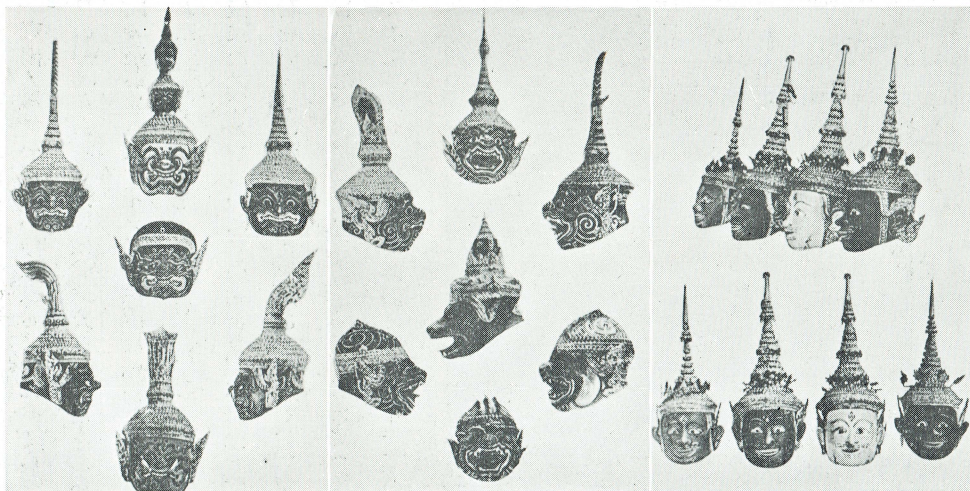
スクな面）ハヌマン（猿の軍の頭目で白色でやはりグロテスクな面）それぞれの役柄の面を頭からすつぽりとかぶつて、日本の所作舞踊の様に踊ります。

又、純粹舞踊の方は、ラムタイと言つて、男女それぞれの異つた豪華な衣裳をつけて、タイ特有の指形（もちろんこれは、インド舞踊のムードラの変形したものであるが）を使用して踊ります。そして、これら古典神話のラーマヤナ物語やキンナリー物語の搜話を踊つております。そして、面白いのは、インド原本のラーマヤナ物語よりも、更に発展して数多くのエピソードがタイストーリーとして加えられ膨大な物語り劇になつております。

次に民族舞踊も沢山ありますが、中でも一番有名なものは、今回第二景の始めに踊ります。フオーンレップと言う踊りです。この踊りは、北タイ地方の民族舞踊でありまして、両手の指先に金の爪をはめ、手首をたくみにひねつて、美しい爪を光らせ、ゆるやかな曲に合せて静かに踊るものであります。今回私の在タイ中にタイ国の王様が北タイのチエンマイ



タイ舞踊の解説



アジアのどこの国へ行つても美しい舞踊及び音楽が沢山あります。特にタイ国人は、非常に舞踊や音楽を愛好する国民です。

東洋の国々の大部分の舞踊や音楽がそうであるように、神聖な宗教的色彩を強く帯びて、発達したものであります。したがって、西洋の音楽に見られない微妙な動きや旋律及び深い思想を持っています。宮廷の祭典・宗教の儀式にも、この音楽や舞踊が重要な役割をもっているのです。タイの音楽舞踊文化のほとんど全てがインドの仏教化の影響を受けて出来ているという事は、タイ文化とインド文化を比較してみれば歴然とわかります。

勿論インドのままではなく、昔カンボヂヤ王国を経て輸入された舞踊や音楽は、タイ王宮の保護の



もとに幾世紀もの発展過程を経て育成され、ラマ第五世（在位一八六八～一九一〇）の時には、タイ古典音楽の外に西洋から数人の音楽家を招いて、小規模で

はあるが、ブラスバンドが出来上つておりラマ六世（在位一九一〇～一九二五）には、益々タイ古典舞踊音楽が発展し、大舞踊団と管絃楽団を編成し、又、芸術院を設けて、古典舞踊部・古典音楽部・西洋音楽部の三部門に分れて王宮内での舞踊音楽の教育及び演奏が行われ、それがラマ第七世（一九二五～一九三五）の終り迄続き、一九三五年のタイ国の政変に依つて、この芸術院が政府の手に移り、現在の国立シルパーコン音楽・舞踊学校となり、タイ国芸術の中心となつたものであります。

さて、内容的に見て、先に私は、インドの影響が強いと申しましたが、インドから輸入された音楽舞踊がタイ国民の温厚な性格と、文化を愛好する国民性によ





ラツダ・シラパバンレン女史

今回は、東洋舞踊のなかで、インド舞踊と共に、すぐれたテクニクと、古い伝統をもっているタイ舞踊と取り組み、タイ古典劇中、ラーマヤナと並び、最も重要な物語りとなつている「キンナリー」を構成する事に致しました。

そのため、本年二月、タイ国に渡り、バンコックのラツダ・シラパバンレン女史のもとで、タイ古典舞踊及び、コーン（マスクプレイ）の指導を受け、その時、幸にも、タイ国王の北タイ巡幸に供してチエンマイ地方へ行き、国王の御前で、幾千人のタイ民衆の踊る数々の民族舞踊を直接見た感激と更に黒いほこりとごみにまみれ、



酷熱と戦いつつ山地に入り土民の踊る原始的な踊りを知り得た喜びを、この「キンナリー」物語の中に取り入れて、新しくタイ舞踊劇（ラコーン）形式に振付けて、公演する事に致しました。尚、今回の公演の伴奏音楽に関して、プラシッド・シラパバンレン氏より貴重なタイ音楽資料の提供を受けたことを御報告し、シラパバンレン夫妻に深く感謝致します。

榎 原 帰 逸

東洋舞踊公演

タイ古典舞踊劇「キンナリー物語」

(第十三回芸術祭参加)



11月15.16日.

於九段会館ホール